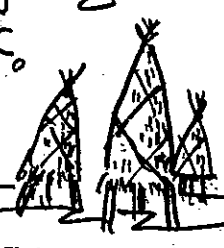


街並地図が大評判



郷土史研究会が、吉前町の過渡期でもあった昭和三十年代の吉前と古丹別の街並を地図におとし、形に残さずとも

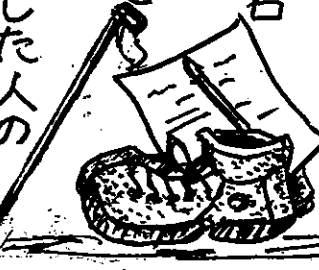


昨年七月ころから製作にとりかかり、ようやく今年の七月に仕上がった。さっそく郷土資料館(七月、八月)と吉前町福祉センターで行われた「みんなの作品展」(十月二日、三日)公民館(エスティバルの町民作品展)十月二十九日、三十日の三会場に展示したところ多くの来館者から注目され、予想以上の評判を得た。

「よくここまで思い出して作ったんだね」「あの時の〇〇があったのか」「あれも懐かしいなあ」「よく憶えているよ」などと、じっくり足を止めて見入っていた。仕上がりに、吉前と古丹別地区で数回検討会を開き、つやく形さこの之、会員たちは皆、ホッとした。

なにせ五十数年ぶりの記憶だけで作製したため正確とはいえず、展示した地図の前に指摘事項を記入して入れてもらう箱を置いたところ三十数件の指摘

ふるさと散歩道に協力



町公民館の成人講座「ふるさと散歩道」が九月四日、女性中心の二十人ほどが参加して行われた。

郷土史研究会から鎌田信夫、浜本哲也、野澤哲美が案内役として協力した。

吉前温泉ふわりことで簡単な事前学習をし、屋外で軽くウォーミングアップしたあと

西団地の戸長役場跡、吉前崎灯台、新郭の急な坂の中腹にあった伏流水が湧く井戸が昭和三十年代まで新郭地区の貴重な水源であったこと、水道が整備されて

からも風呂水として使用されてきたこと、また、参加した人の中から「昔、この坂でザリガニ捕りして遊んだよ」という話も、新郭は昔遊郭や商店、旅館などがありとても華やかだったと説明すると皆んなびっくり、今は全く面影もない。このあと寺子屋跡や運上屋跡を巡り、吉前港の新港ダブルデッキにあがり、快晴の空の下に広がる大海原と天売、焼尻島、遠くに浮かぶ利尻島など大

や変更などのご意見をいただいた。今後、ご指摘などを参考に訂正などし、より正確に近い地図を完成しよう。郷土史研究会で検討を重ねていく予定。

そして、吉前町の二時代の記録として大切に保管し、また多くの活用に応えていきたい。

吉前町内の絶景ポイント 私たちの住むまち吉前町内には素晴らしい景観や自然が織りなす場所がた

くさんあり。その一部を紹介しますので一度行ってみてはいかがでしょうか。

- 春 霧立の千疊敷岩とミラサキヤンソングの群衆
- 夏 豊浦海岸からの西島間に落ちる夕陽(五月末ころ)
- 秋 オートキャンプ場から眺める港の夜景
- 冬 新港ダブルデッキから港内と崖上の温泉ふわり
- 春 上平共同利用模範牧場の頂上から望む日本海と霧の浮島
- 夏 奥小川の黄金色に染まる紅葉の光景(十月末ころ)
- 秋 古丹別の八十八公園の地蔵群

エーッあの名奉行が！ 幕府の大目付 遠山の金吾が吉前ト

幕府がロシアを牽制し北方問題を重視して蝦夷地を詳しく調査するため幕府の大目付役 遠山金四郎が文化三年(一八〇六)吉前の沿岸地方を視察した。

また弘化三年(一八四六)幕末における蝦夷地探検調査の第一人者であり北海道の名付け親として知られる松浦武四郎がトママイの地を三回調査に入っている。(吉前町史から)



郷土資料館

管理員のメモから

◎今年の人館者(五月、十月)は二八五七人

◎ひぐま事件の被害者で斉藤水次のひ孫らしい人が役場前のひぐまのモニメントを見てから温泉に立寄り、ひぐまの話聞いて来館した。名前を明かさなかったが話しぶりでひ孫らしいと思った。(五十歳代の人)

◎男性と女性とつかなない人が来て昔吉前でマイ病(今のハンセン病)の人を隔離しないで一般の人と同じ生活させたのではないかと聞かれたがそんな事実もないし、記録もないと答えた。

◎郷土資料館は町民の財産大切にしてください。

郷土史研究会に

入会しませんか

ふるさと吉前町の歴史と文化の探究に興味のある方ぜひ入会してください。お問い合わせはこちらにあります。

郷土史研究会 吉前町公民館 入会申し込みは 65-4076